

## 緑が丘老人クラブ「緑会」とのタウンミーティング

日 時 令和6年12月14日（土）10:00～11:10

会 場 緑が丘会館

参加人数 58人

### 1) 開会

### 2) 緑が丘老人クラブ「緑会」 会長 挨拶

### 3) 市長 市政報告

○はじめに

・今、能美市の最高年齢者は、男性105歳、女性105歳である。100歳になると、私がお宅を訪問して、応援させていただくが、皆さん本当に元気である。100歳以上の方は、37名いらっしゃるが、そのうち男性は6名、女性は31名ということで、男性の皆さん、ぜひ頑張ってください。女性の皆さんもさらに長生きしていただければ、能美市の人口はどんどん増えることになる。ぜひ最高年齢を緑が丘で占めていただければと思っている。

・今日は、能美市の状況や今後何をやっていくかということを少しお話をさせていただきます。

○令和6年能登半島地震

・市内でも色々な被害が出たが、一番大きかったものは、緑が丘一丁目ののり面崩落により、市道が20m程陥没したことである。現在もまだ直っていない状況ではあるが、できるだけ早く通れるようにしたいと思っている。このほか、マンホール周辺の陥没や美化センタ

一のり面崩落、福岡小学校のプールの液状化、神社の燈籠や石碑の倒壊等があった。産業界では九谷焼の被害が一番多かった。罹災証明書の申請が約2,300件出されている。今、能美市には約2万軒住宅があるので、約1割の被害だったということである。

- ・ワンストップ窓口を設置し、市民の皆さんが1か所で様々な手続きを行え、相談もできるように体制を整えた。

- ・能登から避難された人たちを受け入れるため、避難所の設営を行った。辰口福祉会館や旅館、ホテルだけでなく、市営住宅や借り上げた市内のアパートに住まわれたり、友人や知人の家に身を寄せられたりされた方もいて、一番多いときで約300名の方が避難をされていた。現在、避難所に避難者されている方はいっしょらなくなったが、市営住宅や友人や知人の家に身を寄せられた方がまだ100名程いっしょるので、引き続きサポートしていきたいと考えている。

- ・被災地支援として、職員の派遣を行った。今も2名が常駐して、様々なサポートを行っている。消防車や救急車、給水車、パッカー車の車両派遣も行った。市民の皆さんから集まった義援金や物資を能登へお届けするとともに、イベント等で能登の様々な特産品の販売を行った。私も何度か能登へ被害状況の確認に行き、首長さんとどのようなことが必要か情報交換を行った。

- ・9月には豪雨被害もあり、大きな自然災害がどうして同じ年に能登ばかりに起こるのか、未だに信じられない思いである。11月の初めに、被害状況を確認しに行ったが、地震で地盤が緩んでいるところに雨が降って、それが土石流のようにまちを襲い、一つの集落が全部泥に埋まっており、復旧に時間を要する状態であった。今、国や県もいろいろ取り組んでいるが、能美市としても引き続き支援をしていきたいと思っている。

#### ○令和6年度事業・施策／方針・目的

- ・事業・施策の方針に7本柱があり、毎年5つの方針・目的を設定し、そのすべてが移住定住の促進につながるよう取り組んでいる。自治体の繁栄を表す数値はいろいろあるが、私は人口が重要だと思っている。人口増には自然増と社会増があり、今、日本のほとんどの自治体と同じように能美市も自然減となっている一方、能美市は社会増である。ただ、自然減を社会増で補えず、少し人口が減ってきている。いかに皆さんに長生きをしてもらえるか、また赤ちゃんを産みたいと思ってもらえるような施策を強化するかが重要であり、そのための取組を行っている。

## ○防災減災対策

・行政の最大の使命は、市民の生命と財産を守ることであり、いろいろな取組を行っている。

・能美市に流れている川は一本も直接海に注いでいないので、市内に降った雨をいかに手取川や梯川に流すかが、内水被害を減らしていくことにつながる。

・一昨年(2021年)の8月の大雨により、被害が出たことを受け、手取川宮竹用土地改良区と協定を結び、大雨警報が出たときに手取川から取水しないようにした。これによって、宮竹用水を宮竹排水として使うことができ、市内に降った雨を手取川又は梯川に流すことで、内水被害に対して効果が出るようになった。

・令和6年能登半島地震を受けて、災害備蓄品を見直し、簡易トイレと使い捨て哺乳瓶の備蓄数を倍にした。

・個別避難計画の作成を進めており、身体が不自由な人や高齢者等一人で逃げるのができない人が災害時に取り残されずに避難できるようにしようとしている。24時間365日、あらゆる自然災害を想定して一人一人、計画を作るのはハードルがなかなか高く、町会や近所の人に協力してもらいながら、まずは被害が比較的大きくなることが想定される地域から策定を進めている。

・一昨年(2021年)の8月の大雨では、和気小学校前が一番被害が多かった。鍋谷川が注いでいる梯川は、流れがすごく緩く、雨が降ると梯川の水が鍋谷川に逆戻りするバックウォーターが生じる。今、国の方で梯川の川幅を広げるとともに堆積土砂を除去し、鍋谷川の水が梯川に流れるようにしている。また今度、和気小学校前辺りの鍋谷川の川幅を倍にする工事を行っており、一昨年(2021年)の8月の大雨と同じ雨量となっても同じような被害にならないよう取組を進めている。

・火事が増えており、緑が丘でも数年前に大きな火事があった。火災や自然災害に対応するため、はしご車や津波・大規模風水害対策車、ドローン等、いろいろな資材を整えている。また、救急車も能美市の人口規模では、3台体制で十分とされているが、金沢大学附属病院や県立中央病院への搬送を行うとなると、その間、市内の救急車の数が不足するので、最新鋭の救急車をもう1台増やし、4台体制としている。

・2018年に大雪となったことを受け、小型式の除雪機を増やし、皆さんに使ってもらえるようにしている。また、いろいろな施設で除雪をする場合に、市から少しばかりの補助金

を出す制度も作った。今年はどうも大雪になりそうであると予報が出ているので、気を付けていかなければならない。

- ・宮竹小学校エリアでゾーン30プラスを導入し、30キロ以上スピードが出ないように工夫を行った。辰口中央小学校の正面玄関前も見通しが悪く、道が狭いので、道路を拡張し、子どもたちが事故にあわないような対策を行う。

- ・防災行政無線が聞こえないという声を受け、最新型のものに取り換えた。また、防災行政無線の設置箇所にいないとわからない、内容が多すぎて聞き取れないという声に対応するため、公式LINEやNomimailメールで放送内容をお知らせしている。能美市の公式LINEを登録していただくと、災害情報だけではなく、能美市の様々な情報を簡単に取得することができるので、まだ登録されていない方はぜひお友達登録していただきたい。

#### ○市民力・地域力の強化

- ・能美市の発展には、我々行政だけではなく、市民の皆さんの協力がなくてはならない。能美市は市民力・地域力が大変高く、いろいろな団体がある。一番は町会・町内会で、行政にとってありがたい存在である。また、老人クラブのようなつながりがあればこそ、防災力が強化される等、町全体の発展につながっていく。

- ・来年2月1日に能美市が誕生して20周年を迎えるので、市民の皆さんでこの機運を盛り上げてもらおうと、ふるさと愛醸成事業として、町会・町内会に一定額の補助を行っている。

- ・市民力・地域力の強化には、まずは健康であることが大切であり、サテをリニューアルするとともに市立病院に健診センターを設置した。また、今、日本人の2人に1人ががんになると言われているので、がん検診の助成額を引き上げた。ぜひ皆さんも健康診断を受けていただければと思う。

- ・体育館に空調設備を導入し、物見山総合体育館も冷暖房が効くようになっている。

- ・福祉関係施設の整備も行っており、この周辺だとG-Hillsがある。

- ・北陸鉄道能美線が走っていたところを健康ロードとして、多くの皆さんに利用いただいているが、桜の根が隆起していたり、街灯がないところがあったりするので、今整備をしている。来年は能美電が開通して100年、廃線して45年、能美市誕生20周年の節目であり、秋までに整備を完了させる予定である。また、駅があった場所に看板を付け、周辺施設の紹介等も行いたいと考えている。

- ・物価高騰、エネルギー高騰の影響が一番大きいのは子育て世代であることから、学校給食費の無償化を行った。
- ・小中学校では、GIGAスクール構想を推進し、子どもたちがみんなChrome bookを使って授業を受けている。
- ・最近、学校には行けるが教室に入って一緒に勉強できないという児童が増えてきているため、その児童が勉強できるスペースを造ったり、支援員の確保を行ったりしている。

#### ○地域ブランドの確立

- ・市民の皆さんに、幸福度や暮らしやすさ等を調査したウェルビーイング指標によると、能美市の強みは「住宅環境」や「子育て」、「自然の恵み」であり、弱みは、「買い物・飲食」「遊び・娯楽」「移動・交通」であった。しかし「遊び・娯楽」では、市内には、いしかわ動物園や手取フィッシュランド、ゴルフ場、アドベンチャーガーデン能美等があり、遊ぶ場所はそろっているのではないかと思う。「買い物・飲食」についても、のみ商業協同組合の75店舗やスーパー、ドラッグストア等がある。
- ・企業誘致が大変好調であり、市税収入が増えている。令和元年度に初めて90億円を超え、その後も順調に推移をしている。税収が増えることで、市内施設の充実や福祉に充てることができるので、大変ありがたい。
- ・今日の新聞に今度、能美根上駅に快速電車が止まると掲載されていた。
- ・辰口のスポーツフェスティバルで、全国で人気のティラノザウルス競争を行い、今までスポーツフェスティバルに行ったことがないような人もたくさん参加された。ぜひ来年、緑が丘の運動会でも、ティラノザウルスを行ってみてはどうか。
- ・辰口フラワーハウスの跡地については、道の駅の機能を持った施設を建てたいと計画している。周辺には、いしかわ動物園や辰口丘陵公園等の観光施設がたくさんあり、観光客が来るので、能美市のお土産を一堂に揃えた施設を造りたい。
- ・和気の岩のドッグランも人気があるが、手狭なので、リニューアルを行う予定である。
- ・企業誘致が好調で、人財を確保していく上で、従業員が住むための宅地を増やしてほしいという声が誘致企業から出ており、金沢大学跡地を開発して、一つの大きな町にしていきたいと考えている。
- ・虚空蔵・東能七郷エリアには、史跡名勝が多いので、面としてつないで、周遊できるようにして、観光地にできないかと考えている。

- ・住宅用地を確保するため、和光台五丁目の分譲を行っており、結構人気がある。
- ・能美市のことを広くPRし、能美市を選んでもらえるように、シティプロモーションを行っている。例えば、名誉観光大使である松井秀喜氏に協力をいただいたいて、アニメを制作し、テレビCM等を行っている。

#### ○ゼロカーボンシティ

- ・2013年度のCO<sub>2</sub>排出量に対して、2030年度はその半分に、2050年度までにゼロにしていること、様々な取り組みをしている。

#### ○インクルーシブシティ構想

- ・インクルーシブというのは、誰一人取り残さない、仲間外れにしないという意味であり、健康な人も、障がいをお持ちの人も、高齢者も、子どもも、外国人も、能美市に住む全ての人が安全・安心、快適に暮らせるように、デジタルの力を使って地域共生社会の実現に取り組んでいる。

- ・町会長や民生委員等にタブレットを持ってもらい、ペーパーレス・相互連絡に役立ててもらっている。

- ・保育園では、登園管理をデジタル化し、お便りも紙からアプリでの送信に変えた。小中学校もアプリで連絡をするようにしており、以前はインフルエンザ流行期に欠席の電話が集中してつながらなかったことがあるが、今はアプリで簡単に欠席連絡ができるようになっている。

- ・コロナ禍のときに保護司と対象者がなかなか会えなかったことを受け、保護司にタブレットを持っていただき、対象者に会わなくてもケアできるようにした。

- ・デジタル公民館として、市内82の公民館全てにWi-Fiをつけ、公民館を多世代の交流の場とするための様々な取組を行っている。高齢者はいきいきサロンやスマホ教室に参加するために、子育て世代はeスポーツを体験するために、子どもたちにはChrome bookを持って、勉強するために公民館に来てもらう。そして、子どもたちが、勉強でわからないことを高齢者や子育て世代の方に教えてもらったり、高齢者がスマホの使い方を子どもに聞いたりというような交流を公民館でできないかと考えている。

- ・公民館でオンライン診療も行おうとしている。例えば高血圧や糖尿病の場合、毎月1回かかりつけ医に行って診察を受けて薬をもらう必要がある。それを公民館でオンライン診

療を受けることによって、病院や薬局に行かなくても薬をもらえるようになる。ただ、様々な課題があるので、粟生町をモデルケースとして検証をしながら、随時広げていきたいと考えている。

- ・最近、一人暮らしの高齢者が増えてきている。エアコンや空気清浄機等、IoT家電についているセンサーで、住んでいる人の健康状態や安否等がわかるようになっており、全然動きがないと通報するようになってきている。また、IoT家電が「おはよう」や「ご飯を食べましたか」と声をかけてくれるが、将来的には、「能美市に大雨洪水警報が出されました」とか「能美市から避難指示が発令されました」ということまでお知らせできるようにしていく予定である。

- ・東日本大震災のときにカルテが流され、診療情報がわからなくなることが発生し、全国的に電子カルテ化が広まった。今回の能登半島地震では、能登の一部の人が電子カルテに登録してあったことから、避難先の能美市でも薬をもらったり、透析を受けたりすることができた。能美市全体で同じ電子カルテを広げることによって、検査結果を他の病院でも確認でき、医療費が安くなり、診察時間の短縮につながるという利点があるほか、ケアマネージャーや薬剤師、救急隊等が情報を共有できるようになるメリットがある。また、万が一、能美市に大きな災害が起こり、市民が他自治体に避難しても、そこでスムーズに薬がもらえるようになるので、少しずつ今準備を進めている状況である。ただ、これには大変費用がかかるほか、診療情報等にはデリケートな情報も含まれるので、どこまでどの情報を誰に開示するか、きちんと整理しながら行う必要がある。

#### ○行財政改革

- ・無駄な費用を削減し、もっと皆さんに喜んでもらえる事業を行う等、行財政改革に取り組んでいる。

- ・学校施設の長寿命化に取り組んでいるが、市内の11小中学校は面積比で築50年以上が35%を占める。建て替えをするには多額の費用が掛かるので、まずは安全・安心、おいしい給食を提供するため、学校給食センターを新しく造った。能美市には寺井地区、辰口地区、根上地区と3地区があり、そのうち辰口地区は既に給食センターから給食を提供していたが、寺井地区と根上地区は自校式の給食であった。その2地区に新しい給食センターから給食を提供している。

- ・能美市には15の保育園があったが、全て市営であり、市民の皆さんから民営化を望む声

があったことを受け、まず、福島保育園を民営化した。続いて、古くて手狭となっていた緑が丘と湯野保育園を民営化し、今、新しい場所に新園舎を造っている。

・市民の皆さんのお声を大切にしていきたいと、タウンミーティングやカフェトークを開催しており、いろいろお話を聞く機会が増えている。

○能美市誕生20周年・北陸新幹線県内全線開業

・能美市には北陸新幹線の駅がないので、小松駅に「となりは能美市」という看板を出してPRしている。金沢へ行くホームのエスカレーターがない階段のところにあるので、ぜひご覧になっていただきたい。

#### 4) 質疑応答、意見交換

質問・意見1

【参加者】緑が丘2丁目と4丁目に停まるのみバスが1台もない。辰口福祉会館には、一度にバスが4台停まっていて、鍋谷や北市に行くバスが同じ時間に出発している。温泉から右に行くバスは1時間に1本ずつあるが、左に行くバスは1台もない。また、定期を市役所まで買いに行かなければならないのも何とかならないか。

【市長】一度検討する。

質問・意見2

【参加者】辰口フラワーハウス跡地の空地には、いつになったら何か建つのか。

【市長】道の駅的機能を持った施設を考えているが、物価高で、建ててくれるところがなかなか見つからず、難航している。なんとか来年度中には、どんなものが建てられるのか発表できればと考えている。頑張っているのです、どのようなものがほしいかご希望があれば、おっしゃっていただきたい。

質問・意見3

【参加者】PET検査を一度やってみたいと思っているが、高額だと聞いている。市から補助があるのか。ある場合は、市に個人で申し込めばよいのか。

【市長】PETとDWIBS検査の補助があるので、ぜひ一度受けてみてほしい。病院に直接申し込んでいただければ、助成制度の紹介をしてもらえる。健康推進課に聞いてもらっても良い。

## 5) 閉会